福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（3 月分）

留学先大学 ：ラトガース大学

氏名：内藤　来

＜はじめに＞

留学も残すところあと一か月となりました。今回は留学をする際に気になってくるであろう就活や 4 年卒業というテーマについて書こうと思います。現在留学先から就活中です。内容としては私がしておけばよかったと思ったことを中心に書いています。報告書の内容はあくまでも私の経験と感想なのでほかの留学先で学んでいる人とは違ってくることもあると思いますが、その点についてはご了承ください。

＜就活、4 年卒業、PBL など＞

ラトガースへ留学するには日本の後期から 1 年間留学という条件があります（2019 年 3 月 30 日現在）。2 年後期からの留学ができれば就活にも余裕をもって望むことができますが、3 年後期からとなると就活や 4 年卒業に対して不安が出てくると思います。卒業を一年遅らせることも一つの選択肢だと思いますが、やはりお金がかかります。しかし一年間留学といっても実質は 1 年間ではなく、8 か月半ほどです。アメリカでは冬休みが短く夏休みが長いので、日本の後期にあたる春学期は 5 月中旬に終わり、5 月中に帰国することが可能です。

5 月中に帰国することができれば就活はまだ可能だと思います。しかしやはりほかの日本にいる学生と同じように就活できるかというと正直できません。今年は半分以上の企業は面接を 5 月以前に行っているような気がします。適性検査や SPI 検査がオンラインで受けられずに、日本の試験センターで受ける必要があるような企業も多いです。またそうでなくとも説明会に参加しないと選考に進めないような企業もあるので、選択肢はやはり少ないです。個別に連絡して選考の内容を変えてもらえるようなことがあればまた違ってくるのかと思いますが、なかなか簡単にできるようなことではないと思います。ただ次の年から就活のルールが変わるのでその辺りがどうなるかは正直予想がつきません。結局あまり変わらないのかもしれませんが、就活の話については参考程度に読んでください。

友人とボストンに行ってきました

ラトガースに留学するのは 8 月の後半からになります。福井大学の前期は 8 月の最初の週あたりに終わるので、出発までの時間はあまり残されていません。そこからインターンなど就活を始めることが出来ればよい

と思いますが、少し休んだり友達と会ったりしたい人が多いと思うので、私は留学中の冬休み（12 月後半から 1 月後半）が良い時期だと考えています。1 か月あればエントリーシートの準備なども十二分にできます。調べたうえで選考に必要な説明会を開催している企業があれば日本に帰るという選択肢もあります。私はここでほとんど準備をしなかったので今現在エントリーシートに追われる日々を過ごしています。

単位交換については、やはり福井大学で取れるだけ単位を取ったうえで留学し、単位交換を気にせずに履修することが良いと思います。単位交換が無事に行われる確信がないまま留学生活を過ごすのは不安が付きまといます。単位交換はなかなか簡単にはいきません。またラトガースは特に授業の種類がとても多いので、単純に興味のある授業から履修を組んだほうがより留学も充実したものになると思います。

PBL については留学の 1 学期目（8 月下旬から 12 月下旬）で行うことが望ましいと思います（3 年生の後期からの留学の場合）。4 年生が近づいてくると就活、卒論が本格的に始まってくるのでそれと同時に PBL を行うことは負担になります。1 学期目に PBL を始めるには留学前から準備する必要がありますが、留学中に準備するよりも日本で準備を始めたほうが直接助言教員の方に相談出来たりいろいろと都合がよいので、ここはめんどくさがらずに留学前に準備しておくことを勧めます。またおそらく課題等に追われ、ラトガースでの生活のほうが日本での生活よりも忙しいです。一学期目に終えることが出来れば冬休みを使ってじっくり報告書を書く時間もあります。

＜終わりに＞

ラトガースに 3 年後期から一年間(実質 8 か月半)留学しても就活はできますし、4 年で卒業することも可能です。ただやはり通常よりは都合が悪いことがでてくることはあります。しかし以前の報告書でラトガースのすばらしさを書いているように、それらを踏まえてもラトガースは留学する価値のある大学だと思います。私自身もラトガースを選んでとても良かったと思っています。総じて言えることは留学前にやれることはやっておくことだと思います。当たり前のようですがこれは本当に大事になってきます。日本でできることがアメリカでもできるとは限りません。同じことをするのにもより時間と労力がかかることが多いです。これらを分かった上でもしてこなかったのが私なので、ほかの人も完璧にやることをやってから留学というようにはならないもかもしれませんが、この報告書を読んでくれた人が一つでも多くの準備をして、留学生活がより負担の少ないものになることを願っています。